

令和 5 年 5 月 24 日現在

機関番号：37129

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K21724

研究課題名（和文）女性医療職におけるキャリア継続の10年の変遷を追う

研究課題名（英文）Tracking the transition of a decade of career continuity among women medical professionals

研究代表者

榑木 晶子（CHISYAKI, Akiko）

福岡看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60216497

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：平成20年に報告した女性医療人の生きがいや健康意識を、約10年を経て再調査した。5大学に勤務する約5000人の女性医療人に基本項目（職種、教育歴、勤続、年齢、婚姻・世帯状況、雇用形態等）、職場環境情報（勤務時間、職業性ストレス簡易調査票）、健康情報（精神健康調査GHQ、生活習慣等）を調査した。2335人の調査票を回収し有効回答者は2105人（看護師1651、医師195、歯科医師36、薬剤師37、検査技師・放射線技師124、理学療法士等32）であった。看護師の精神健康度が最も悪く医師が最も良好であった。職業性ストレスも看護師が最も悪かった。看護師の健康度を高めストレス軽減の方策が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

超高齢社会の出現により、妊娠出産だけで無く家族の介護や就労者自身の疾病・障害と共存した就労等の多様な環境にある女性医療人が、仕事を継続するためには労働条件や環境の再構築が求められている。元来、離職・流動化しやすい女性が、高度医療専門資格を有効に活用して就業を継続できる要因を探索し明らかにすることは、少子超高齢社会が進む我国の様々な職場における「働き方」を考えていく上で非常に意義があり応用可能である。また、本院では10年以上女性医師のキャリア継続のために就業・復職支援を継続してきており、10年前の調査結果をもとにその変化を検討し支援の有効性を検討できる。

研究成果の概要（英文）：We studied the attitudes of women medical professionals toward ‘purpose in life’ and their health using the similar questionnaires that we had used in 2008, almost 10 years before. Approximately 5,000 female medical professionals at five universities were surveyed on basic items (e.g., occupation, education, tenure, age, marital and household status, and employment status), work environment (working hours, Occupational Stress Questionnaire), and health status (Mental Health Survey GHQ, lifestyle, etc.). We collected 2,335 questionnaires and received 2105 valid responses (1651 nurses, 195 physicians, 36 dentists, 37 pharmacists, 124 laboratory technicians/radiologists, 32 physical therapists, etc.). Nurses had the poorest mental health and physicians the best. Occupational stress was also the worst among nurses. Measures to improve nurses' health and to reduce their stress are needed.

研究分野：社会学およびその関連分野

キーワード：女性医療人 キャリア継続 労働衛生的視点 精神的健康度 高度専門職

## 1. 研究開始当初の背景

我国の2016年の総医師数は約32万人、その中の女性医師は6.7万人(21%)であった。医学部生の女子比率は1985年に20%を超え、30年を経た当時34%と増加したが、女性医師比率は21%に留まっていた。このように女性医師の定着率は低く現場は慢性的な医師不足がみられ、地方では現在、医療崩壊の危機に瀕している。日本は少子超高齢社会であり、今後労働力人口の高齢化と減少による労働市場の人手不足が予想されている<sup>1)</sup>。医療・ヘルスケア分野で働く医療従事者数も十分ではない。人口千人当たりの医師数は2.5人で、OECD加盟国中の下から6位と世界的にも低い<sup>2)</sup>。我国では、医療現場に限らず長時間労働による心身への影響が指摘され、様々な研究が行われているが、高度専門職の多い医療現場は、人命を扱い、かつ自身が健康の専門家であるが故に、そこで働く人々の健康や職場環境に関する労働衛生的視点からの分析は少ない。また、我国では特に就労女性医師の数が少なく、短時間労働や離職など、従来の年功序列・終身雇用的な労働条件に女性医師が合わない(従わない)からだと説明される。医学部入試での女子学生への差別は、フルタイム職の男性医師を基準にした職場からの排除行為だとも考えられる。しかし、医療の現場は人の命を扱うため「聖域」とみなされ、医療現場の職場環境や働き方については一般企業等の職場と異なり、評価対象となりにくく、評価のゴール(企業では利益追求)も設定できにくい状況が見られる。

妊娠や出産によって就業できない時期があるのは女性特有の現象である。そのため、就職に有利とされる「資格」に基づく職業は女子及びその親に非常に人気がある。非正規雇用等の不安定就労の増加により、メンタルヘルス等の健康問題や生活不安による少子化が加速する今日、社会的地位と生きがいを保てる医療資格職は、女性を自立させ安定した働き方ができるロールモデルとしてその在り方に注目が集まる。国際的にも、医療職は生命や健康にかかわる行為を行うためニーズが高い。特に人口増加の激しい途上国では教育システムが追い付かず、医師・看護師の偏在や不足が社会課題となっている。東欧、北欧を中心に女性医師割合は5割以上と高く、女性医師割合の高いスペインは、医療や介護は女性向きという伝統的な考えに加え、女性医療職の公的機関での登用が進んでいる状況が報告されている<sup>3)</sup>。即ち、職業意識や就業システムの工夫次第で医療職における女性参画は十分可能と考え、その既存のシステムの課題や望ましい条件を探るべく研究を立案した。従来、医師や看護師を含めた女性労働者の就労支援として妊娠・出産・育児期を中心とした取り組みが行われるが、この介入は一時的・部分的なもので十分でない。今日は非婚者も多く、世帯当たりの子供数は少なく、男女の伝統的性別役割分担意識も薄れてきている。超高齢社会の出現により、家族の介護や就労者自身の疾病・障害と共存した就労など、多様な人が仕事を継続するためには労働条件の再構築が求められている。離職・流動化しやすい女性が、高度医療専門資格を有効に活用して就業を継続できる要因を探索し明らかにすることは、少子超高齢社会が進む我国の様々な職場における「働き方」を考えていく上で非常に意義があり応用可能である。

## 2. 研究の目的

申請者は2007年度文部科学省大学改革等推進事業「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」に採択され女性医療人支援プロジェクトを立ち上げた。その後、久留米大学病院における「元気プロジェクト」、佐賀大学医学部における「バルーンプロジェクト」も開始され、10年を経た現在、このような取組の評価時期でもある。本研究ではこのような取組を行ってきた大学病院を中心に、男女医療職の労働環境に対する意識を調査し、高度医療専門職者が就業継続しやすい労働条件を明らかにする。さらに、申請者が10年前に九州大学、佐賀大学、福岡大学で施行した医療職の調査結果と今回の結果を基に縦断的分析も行い、これまでの取組の評価と共にエビデンスに基づいた医療職のキャリア継続要因を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 対象

2020年3～11月に九州北部の大学病院5か所で勤務する医療職者に対し、質問紙もしくはWebにて調査を行った。各病院で調査依頼書等を配布後(7,698部)、回答期間は約1～2ヶ月とし、最終的に3,036人分を有効回答として回収した(回答率39.4%)。このうち、本研究では10年前に施行した女性医療人との比較のために男性931人を除いた女性医療人(合計2,105人)を解析対象とした。本研究は調査票による横断研究で、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の審査を経て(許可番号2019-361)実施した。

### (2) 調査内容

調査票は無記名の自記入式で、下記のような調査項目を含んでいた。

・基本項目:職種、専門、教育歴、勤続、年齢、性別、婚姻・世帯状況、子どもの有無、雇用形態、

## 経済状態

・職場環境の情報:勤務時間、職業性ストレス簡易調査票、努力-報酬不均衡モデル調査票  
・健康情報:精神健康調査(General Health Questionnaire: GHQ)<sup>4)</sup>、主観的健康、生活習慣  
健康状態はGeneral Health Questionnaire30 (GHQ30)の得点と主観的健康感<sup>5)</sup>で「良くない」もしくは「あまり良くない」との回答による健康不良割合を用いた。職場環境から生じるストレスは努力-報酬不均衡モデルの日本語版調査票<sup>6)</sup>で評価し、努力と報酬の得点比を職業性ストレスとした。

### (3) データ収集方法

アンケートは紙媒体及び オンライン・データ集積管理システム (Research Electronic Data Capture: REDCap)の両方を用いて実施した。収集されたデータは研究代表者の所属施設内に設置したサーバーに集約され、厳重に管理した。

### (4) 解析方法

・職種、施設、部署ごとに集計し、10年前と現在、異性間、職種間、専門(診療科)間の職場環境、健康指標、生活状況の単純比較を行うことで各職場環境を特徴づける。  
・年齢、婚姻等の生活背景など交絡要因を調整して多変量解析を行い、各種要因と労働衛生上のより良いアウトカム指標との関連を探索する。  
・組織や部署、職種といった複数の階層グループが存在するため、最終的にはマルチレベルモデルの多変量解析を行うことで、医療者のキャリア継続に重要な要因を明らかにしていく。

## 4. 研究成果

### (1) 対象の分類

3,036人のうち、本研究では10年前に施行した女性医療人との比較のために男性931人を除いた女性医療人(合計2,105人)を職業的特性、夜勤の有無、患者対応の多寡とその責任の重さ、回答者の数から、以下の6群に分類した。看護師1681人、医師195人、歯科医師36人、薬剤師37人、診断関連医療職124人(診療放射線技師や検査技師)、治療関連医療職32人(臨床工学士、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士、その他:公認心理師、歯科衛生士、視能訓練士、医療技術職員)であった。診断関連医療職にまとめた診療放射線技師、検査技師は、診断や検査が主な仕事であり他の職種に比べると職務の中で患者と直接対応する時間は短い。一方、治療関連医療職にまとめた臨床工学士、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士等は治療の一役を担い患者と接する時間が長い職種として一群にまとめた。

### (2) 対象の基本特性

対象の基本特性(年齢、性別、学歴、雇用形態、労働時間、給与体系、職位、婚姻状態、子供)対象者全体の年齢の中間値は35歳で、看護師が6群の中で最も若く(32歳)、医師が最も年齢が高い(39歳)集団であった。学歴では医師、歯科医師、薬剤師は6年生卒業であり、博士号取得者は歯科医師が68%を占め、医師(約40%)や薬剤師(約12%)に比べると多かった。看護師においては4年生卒業が約60%と診断関連医療職や治療関連医療職の40%台に比べると高い比率であった。治療関連医療職者は専門学校卒業が約30%を占めていた。雇用形態においては、看護師、薬剤師、診断関連医療職者、治療関連医療職者は正規雇用者が90%以上を占めていたが、医師は80%、歯科医師は70%であった。時短の非常勤で勤務しているのは歯科医師に約25%見られ最も多かった。非常勤職を除いた正規雇用者における労働時間は、月当たりの勤務日数も週当たりの労働時間も医師で最も長かった。月当たりの夜勤は看護師が、一番回数が多く、次が医師であった。給与体系では、非常勤が多い歯科医師に日給や時給が一番多く見られた。職位としては看護師、薬剤師、診断関連医療職、治療関連医療職においては約70%が役職なしの職員であった。

回答者における婚姻状況は医師が63%で一番高く、看護師を含め医師以外ではほぼ同等で30%台であった。子供の有りも医師では約50%と、その他の医療職(20~30%台)より高かった。

### (3) 健康状態

このような調査対象者の心身の健康度をGeneral Health Questionnaireと主観的健康観、睡眠時間により検討した。一般健康調査票30(GHQ30)の総得点の平均値は全体では8.6点であり、看護師は9.8と最も悪く、医師や歯科医師では6点台で最も低かった。薬剤師、診断関連医療職や治療関連医療職で7-8点台と中等度であった。GHQ $\geq$ 7点以上の健康問題があると考えられる医療人が全体の56%に見られ、看護師では66%と最も多かった。医師、歯科医師はどちらも約40%であり、医療職種のなかでは健康問題を抱えている人は少ない職種であった。主観的健康状態は、全体では50%がふつう、34%がよい~とてもよいと答えており、その中でよいが約22%、とてもよいが12%をしめていた。ふつうと答えている比率は全職種でほぼ50%と有意差はないが、とてもよいと答えたのは看護師では7.5%にすぎず、診断関連医療職でも約12%と低い傾向がみられたが、医師は約20%と一番高かった。睡眠時間に関しては約80%の対象が5~6時間台の睡眠時間であり、職種間でも有意差は無かった。主観的な睡眠感にも職種間で有意差は無く、

50%台の医療職者が、まあまあ睡眠が取れているという答えであり、約 30%が十分に取れていないという回答であった。

#### (4) 職業に関するストレス：努力－報酬不均衡モデル

報酬不均衡モデルに従って、仕事上の努力要素と報酬要素を測定して得点化し、バランス(努力／報酬)を検討した。全体では努力要素の得点の中央値は 16 点、報酬要素は 47 点、バランスは 0.7 であった。ストレスリスクは日本人標準値との差の比率をみたものであるが、看護師で一番ストレスリスクが高かった。努力要素は看護師が他の職種に比べて、有意に高く、報酬要素は治療関連医療職で最も低かった。その結果、努力と報酬のバランスは、看護師は医師、歯科医師、診断関連医療職より悪く、治療関連医療職は歯科医師、診断関連医療職より悪かった。

#### (5) 医療事故の経験

全体では、およそ 50%に過去 1 年間に危機を感じる事が少しあったと答えている。まったく無かったと答えたのは歯科医師が一番多く 11%であり、治療関連医療職においても 8%と多かったが、看護師や薬剤師では約 4%と少なかった。一方で、しばしば感じた者、実際におこした者を合計すると看護師と薬剤師では 20%を越えていた。実際に事故をおこしたのは看護師と医師で約 5%と他より高かった。

#### (6) 人生への評価・満足

生きがいや趣味などに対する質問においては、3 要素に集約して結果を示した。まず、自分の趣味や家族とゆっくり過ごせないことにストレスを感じるのは医師が一番高く、自分の健康によいことをしたり、将来について考えられないストレスは医師や看護師で高かった。また、自分の時間管理ができないストレスは医師と歯科医師で高かった。薬剤師、診断関連医療職や、治療関連医療職では低かった。

#### (7) 人的サポートの利用

情緒的支援は看護師や医師に比べると診断関連医療職者で一番低く、実際の支援を受けているのは歯科医師が一番高かった。情動的支援は職種間で有意差はなかった。

#### <引用文献>

- 1) パーソル総合研究所・中央大学. 労働市場の未来推計 2030. 2018.  
[https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKewiF0of5-7X7AhXwkYkEHX40CA8QFnoECBAQAQ&url=https%3A%2F%2Frc.persol-group.co.jp%2Fnews%2Ffiles%2Ffuture\\_population\\_2030\\_4.pdf&usg=A0vVaw3j0024uXl4q1TroOECMnMM](https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKewiF0of5-7X7AhXwkYkEHX40CA8QFnoECBAQAQ&url=https%3A%2F%2Frc.persol-group.co.jp%2Fnews%2Ffiles%2Ffuture_population_2030_4.pdf&usg=A0vVaw3j0024uXl4q1TroOECMnMM) (参照：2023. 4. 25)
- 2) Organisation for Economic Co-operation and Development. Health at a Glance 2021: OECD Indicators. Highlights for Japan. 2018.  
[https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKewigz8KA\\_bX7AhUfEVkFHd\\_jBZoQFnoECBAQAQ&url=https%3A%2F%2Fwww.oecd.org%2Fjapan%2Fhealth-at-a-glance-japan-EN.pdf&usg=A0vVaw3PtsAKDzuCIaH6aALMHQ0J](https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKewigz8KA_bX7AhUfEVkFHd_jBZoQFnoECBAQAQ&url=https%3A%2F%2Fwww.oecd.org%2Fjapan%2Fhealth-at-a-glance-japan-EN.pdf&usg=A0vVaw3PtsAKDzuCIaH6aALMHQ0J) (参照：2023. 4. 25)
- 3) 共同参画 No28 内閣府 特集／地域における男女共同参画の推進について 2010 Oct  
<https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2010/201010/pdf/201010.pdf> (参照：2023. 4. 25)
- 4) 北村俊則. 精神症状測定の理論と実際；評価尺度，質問票，面接基準の方法論的考察. 東京，海鳴社，1988；25-55.
- 5) Haddock CK, Poston WS, Pyle SA, Klesges RC, Vander Weg MW, Peterson A, Debon M. The validity of self-rated health as a measure of health status among young military personnel: evidence from a cross-sectional survey. Health and Quality of Life Outcomes. 2006;4(1): 1-9.
- 6) 堤明純. 職場環境等改善のための「努力－報酬不均衡モデル職業性ストレス調査票」活用マニュアル 厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究費研究「職場環境等の改善を通じたメンタルヘルス対策に関する研究」班 平成 14 年度～16 年度総合研究報告書. 2005；239-254. 2005. [http://www.tmu-ph.ac/pdf/090716\\_03.pdf](http://www.tmu-ph.ac/pdf/090716_03.pdf). (参照：2023. 4. 25)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 27件／うち国際共著 7件／うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 Taketomi K, Ito Y, Tokunaga E, Hirano Y, Fujino Y, Chishaki A	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 Developing a Questionnaire on the Quality of Working Life for Female Medical and Healthcare Professionals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Industrial Health	6. 最初と最後の頁 385-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2486/indhealth.2020-0257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Mukai Y, Kawai S, Inoue S, Takase S, Sakamoto K, Nagaoka K, Chishaki A, Tsutsui H.	4. 巻 37(2)
2. 論文標題 Bigeminal potentials in the pulmonary vein indicate arrhythmogenic trigger of atrial fibrillation.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Arrhythm	6. 最初と最後の頁 331-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/joa3.12462. eCollection 2021 Apr.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Matsuzaka Y, Kamiya CA, Konishi TY, Shionoiri T, Nakanishi A, Iwanaga N, Chishaki A, Kurosaki K, Ohuchi H, Yoshimatsu J	4. 巻 4
2. 論文標題 Breastfeeding and postpartum outcomes among women with congenital heart disease.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Cardiology Congenital Heart Disease	6. 最初と最後の頁 100-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijcchd.2021.100167	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kawai S, Mukai Y, Inoue S, Yakabe D, Nagaoka K, Sakamoto K, Takase S, Chishaki A, Tsutsui H	4. 巻 33
2. 論文標題 Location and coupling interval of an ectopic excitation determine the initiation of atrial fibrillation from the pulmonary veins	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Cardiovasc Electrophysiol.	6. 最初と最後の頁 629-637
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jce.15371	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita K, Chishaki H, Ando S, Chishaki A	4. 巻 20
2. 論文標題 Sex differences in the effectiveness and affecting factors to adherence of continuous positive airway pressure therapy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sleep and Biological Rhythms	6. 最初と最後の頁 191-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41105-021-00355-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sawatari H, Chishaki A, Nishizaka M, Miyazono M, Tokunou T, Magota C, Yamamoto U, Shimizu Handa A, Ando S.	4. 巻 35(6)
2. 論文標題 Accumulated Nocturnal Hypoxemia Predict Arterial Endothelial Function in Patients with Sleep-disordered Breathing with or without Chronic Heart Failure.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heart and Vessels.	6. 最初と最後の頁 800-807
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00380-020-01557-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hill EA, Sawatari H, Nishizaka M, Fairley DM, Chishaki A, Funakoshi K, Riha RL, Ando S.	4. 巻 125(4)
2. 論文標題 A Cross-Sectional Comparison of the Prevalence of Obstructive Sleep Apnea Symptoms in Adults With Down Syndrome in Scotland and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Am J Intellect Dev Disabil	6. 最初と最後の頁 260-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1352/1944-7558-125.4.260	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kang M, Sawatari H, Chishaki H, Shinbara R, Yamasaki K, Sato T, Fujita K, Sakamoto I, Hiasa K, Ishikita A, Umemoto S, Tsutsui H, Kamiya C, Niwa K, Chishaki A	4. 巻 35(11)
2. 論文標題 Elaborate evaluation of serial changes in electrocardiograms of atrial septal defects after transcatheter closure for a better understanding of the recovery process.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heart and Vessels	6. 最初と最後の頁 1594-1604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00380-020-01632-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toyofuku K, Nagamatsu Y, Miyazono M, Tanaka T, Moriyama T, Fujisawa K, Nagai E, Ohuchida K, Nakamura M, Chishaki A.	4. 巻 111(1)
2. 論文標題 Changes in Eating Behaviors and Physical and Mental State of Gastric Cancer Patients during the First 6 Months after Surgery	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Fukuoka Acta Medica	6. 最初と最後の頁 26-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/3054000	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mukai Y, Kawai S, Inoue S, Takase S, Sakamoto K, Nagaoka K, Chishaki A, Tsuitsui H.	4. 巻 37 (2)
2. 論文標題 Bigeminal potentials in the pulmonary vein indicate arrhythmogenic trigger of atrial fibrillation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Arrhythmia	6. 最初と最後の頁 331-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/joa3.12462	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Taketomi K, Ito Y, Tokunaga E, Hirano Y, Fujino Y, Chishaki A	4. 巻 -
2. 論文標題 Developing a Questionnaire on the Quality of Working Life for Female Medical and Healthcare Professionals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Industrial Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishikawa T, Mishima H, Barc J, Masanori P Takahashi PM, Hirono K, Terada S, Kowase S, Sato T, Yasushi M, Yui Y, Ohkubo K, Kimoto H, Watanabe H, Hata Y, Aiba T, Ohno S, Chishaki A, Shimizu W, Horie M, Ichida F, Nogami A, Yoshiura K, Schott JJ, Makita N.	4. 巻 13 (10)
2. 論文標題 Cardiac Emerinopathy: A Nonsyndromic Nuclear Envelopathy With Increased Risk of Thromboembolic Stroke Due to Progressive Atrial Standstill and Left Ventricular Noncompaction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Circulation. Arrhythmia and Electrophysiology	6. 最初と最後の頁 e008712
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/circep.120.008712	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sato T, Fujino T, Higo T, Ohtani K, Hiasa K, Sakamoto T, Chishaki A, Shiose A, Tsutsui H.	4. 巻 60
2. 論文標題 Flow Pattern of Outflow Graft is Useful for Detecting Pump Thrombosis in a Patient with Left Ventricular Assist Device	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int.Heart Journal	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1536/ihj.18-600. Epub 2019 Jun 28.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagamatsu Y, Satoh M, Toyofuku K, Miyazono M, Chishaki A.	4. 巻 110
2. 論文標題 Medication Adherence among Colorectal Cancer Patients Receiving postoperative adjuvant Chemotherapy: a longitudinal Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Fukuoka Acta Medica	6. 最初と最後の頁 24-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nao T, Rahmawati A, Nishizaka M, Sawatari H, Moriyama N, Chishaki A, Ando S, Ohkusa T.	4. 巻 18
2. 論文標題 Prevalence of sleep-disordered breathing in Japanese children ; Efficiency of screening with nocturnal pulse oximetry	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sleep and Biological Rhythms	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41105-019-00242-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamasaki K, Sawatari H, Kanagai N, Kamiya C, Yoshimatsu J, Muneuchi J, Watanabe M, Fukuda T, Mizuno A, Sakamoto I, Yamamura K, Ohkusa T, Tsutsui H, Niwa K, Chishaki A.	4. 巻 83
2. 論文標題 Peripartum management of pregnant women with congenital heart disease.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Circ J	6. 最初と最後の頁 2257-2264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1253/circj.CJ-19-0369	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawatari H, Chishaki A, Nishizaka M, Miyazono M, Tokunou T, Magota C, Yamamoto U, Shimizu Handa A, Ando S.	4. 巻 35(6)
2. 論文標題 Accumulated Nocturnal Hypoxemia Predict Arterial Endothelial Function in Patients with Sleep-disordered Breathing with or without Chronic Heart Failure.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heart and Vessels	6. 最初と最後の頁 800-807
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00380-020-01557-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawai S, Mukai Y, Inoue S, Yakabe D, Nagaoka K, Sakamoto K, Takase S, Chishaki A, Tsutsui H.	4. 巻 9
2. 論文標題 Non-Pulmonary Vein Triggers of Atrial Fibrillation Are Likely to Arise from Low-Voltage Areas in the Left Atrium	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 12271-12271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-48669-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Elizabeth A. Hill, Sawatari H, Nishizaka M, Donna M. Fairley, Chishaki A, Funakoshi K, Renata L. Riha, Ando S.	4. 巻 in press
2. 論文標題 A cross-sectional comparison of the prevalence of obstructive sleep apnea symptoms in adults with Down syndrome in Scotland and Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 American Journal on Intellectual and Developmental Disabilities	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kang M, Sawatari H, Chishaki H, Shinbara R, Yamasaki K, Sato T, Fujita K, Sakamoto I, Hiasa K, Ishikita A, Umemoto S, Tsutsui H, Kamiya C, Niwa K, Chishaki A.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Elaborate evaluation of serial electrocardiographical changes of atrial septal defect with transcatheter closure deepened understanding of cardiac remodeling.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Circ J	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto Kazuo, Mukai Yasushi, Kawai Shunsuke, Nagaoka Kazuhiro, Inoue Shujiro, Takase Susumu, Yakabe Daisuke, Ikeda Shota, Mannoji Hiroshi, Nagayama Tomomi, Chishaki Akiko, Tsutsui Hiroyuki	4. 巻 17
2. 論文標題 Intra-atrial activation pattern is useful to localize the areas of non-pulmonary vein triggers of atrial fibrillation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0264894
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0264894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Tasuku, Sakamoto Ichiro, Hiasa Ken-ichi, Kawakubo Masateru, Ishikita Ayako, Umemoto Shintaro, Kang Min-Jeong, Sawatari Hiroyuki, Chishaki Akiko, Shigeto Hiroshi, Tsutsui Hiroyuki	4. 巻 39
2. 論文標題 High-echoic line tracing of transthoracic echocardiography accurately assesses right ventricular enlargement in adult patients with atrial septal defect	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The International Journal of Cardiovascular Imaging	6. 最初と最後の頁 87 ~ 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10554-022-02712-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita Yumiko, Izukura Rieko, Kishimoto Junji, Kanaoka Maki, Fujita Hayato, Ando Koji, Nagai Shuntaro, Akiyoshi Sayuri, Tagawa Tetsuzo, Kubo Makoto, Inokuchi Junichi, Ohuchida Kenoki, Oki Eiji, Tanaka Kentaro, Eto Masatoshi, Yoshizumi Tomoharu, Nakamura Masafumi, Chishaki Akiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Reliability, validity, and responsiveness of the Japanese version of the EORTC QLQ-ELD14 in evaluating the health-related quality of life of elderly patients with cancer	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Cancer Research and Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00432-022-04414-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawatari Hiroyuki, Rahmawati Anita, Moriyama Nobuko, Fujita Kanae, Ohkusa Tomoko, Nao Tomoko, Hashiguchi Nobuko, Nishizaka Mari, Ando Shin-ichi, Chishaki Akiko	4. 巻 4
2. 論文標題 Characteristics of sleep-disordered breathing in children with down syndrome - A comparison with typically developing children	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sleep Medicine: X	6. 最初と最後の頁 100045 ~ 100045
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sleepx.2022.100045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計52件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 宮田潤子、橋口暢子、貝沼茂三郎、金岡麻希、近藤琢也、入江敬子、田尻達郎、濱田正美、樽木晶子
2. 発表標題 看護師の漢方医学への関心とセルフケアに関する調査研究（第2報）
3. 学会等名 第17回東洋医学学会発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 畠山純子 谷口奈央、松崎英津子、吉永泰司、濱中一平、牧野路子、堤貴司、谷口祐介、大曲紗生、山本繁、米田雅裕、樽木晶子
2. 発表標題 福岡歯科大学健診センターによる学校歯科健診における高校生アンケート調査
3. 学会等名 第48回福岡歯科大学総会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米田雅裕、畠山純子、谷口奈央、松崎英津子、吉永大周、濱中一平、谷口祐介、堤貴司、牧野路子、大城希美子、宮園祥爾、佐々木三奈、馬場篤子、高田俊輔、永井淳、阿南壽、樽木晶子
2. 発表標題 新規開発口腔健診用QRFライトの有効性確認—臨床研修歯科医に関する調査
3. 学会等名 第48回福岡歯科大学総会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 現役の不整脈薬物治療
3. 学会等名 第15回日本性差医学・医療学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本江純子、榎木晶子、富岡智子、神谷千津子
2. 発表標題 JJC Pioneersに聞く！これからの私たちの進む道
3. 学会等名 第86回日本循環器学会学術集会（JCS2022）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 錦谷 まりこ、城戸 瑞穂、中川 朋子、安元 佐和、守屋 普久子、川波 祥子、武富 貴久子、藤野 コリ子、永吉 絹子、伊豆倉 理江子、加藤 聖子、中島 直樹、榎木 晶子
2. 発表標題 大学病院における医療職者の働き方と健康・安全との関係
3. 学会等名 第37回日本ストレス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永吉絹子、榎木晶子、藤田逸人、永井俊太郎、武富貴久子、藤野コリ子、中村雅史、赤司浩一、石橋達朗
2. 発表標題 ダイバーシティ時代の女性医師の育成と支援 九州大学病院のキャリア支援策と当科における女性外科医師支援の現状と取り組み；
3. 学会等名 第120回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永吉絹子、榎木晶子、中村雅史、赤司浩一、石橋達朗
2. 発表標題 九州大学病院のキャリア継続支援策・きらめきプロジェクトの13年間を振り返って
3. 学会等名 第115回日本消化器病学会九州支部例会・第109回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤 翼, 坂本 一郎, 日浅 謙一, 坂本 隆史, 梅本 真太郎, 澤渡 浩之, 姜 旻廷, 藤田 香奈恵, 森山 宣子, 筒井 裕之, 樽木 晶子
2. 発表標題 経胸壁心エコーは心房中隔欠損症における右室容積を過小評価する～心臓MRI を用いた検討～
3. 学会等名 第84回日本循環器学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 不整脈薬物治療の今昔
3. 学会等名 サザンハート・医療連携カンファレンス（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 アカデミックキャリア（AC）委員会特別企画「日本循環器学会の取り組み」
3. 学会等名 第14回日本性差医学・医療学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 「閉経後高血圧について」
3. 学会等名 第8回臨床高血圧フォーラム シンポジウム 3
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田香奈恵、樽木晶子、橋口暢子、宮園真美、澤渡浩之、山崎啓子、姜 旻廷、森山宣子、西坂麻里、安藤真一
2. 発表標題 閉そく性睡眠時無呼吸を伴う循環器疾患患者の特性と持続陽圧呼吸治療アドヒアランス の検討
3. 学会等名 第55回日本循環器病予防学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤翼、坂本一郎、石北綾子、坂本隆史、内野紗織、神谷登紀子、堤真希、花田麻美、河 原吾郎、大竹沙矢香、伊藤真美、平川加寿美、河村美希、日浅謙一、樽木晶子、筒井裕之
2. 発表標題 Apico-Aortic conduit Bypass 術後の残存大動脈弁逆流の重症度評価に苦慮した一症例
3. 学会等名 心エコー学会第30 回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 私たちのダイバーシティに向けて
3. 学会等名 第113 回日本消化器病学会 九州支部例会 女性医師の会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 澤渡浩之、樽木晶子、安藤真一
2. 発表標題 睡眠呼吸障害を合併する慢性心不全患者における低酸素血症の蓄積と血管内皮障害との関
3. 学会等名 第34 回心電情報処理ワークショップ、第29 回体表心臓小電位研究会、第16 回心電図伝送 システム研究会 合同集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 澤渡 浩之, 孫田 千恵, 中村 亮, 荒川 剛, 林 克美, 田中 薫 門上 俊之, 榑木 晶子, 安 藤真一
2. 発表標題 睡眠呼吸障害を合併している心収縮能が保たれた心不全患者における夜間頻尿が及ぼす Quality of Life への影響
3. 学会等名 日本睡眠学会第44回定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田香奈恵、榑木晶子、橋口暢子、澤渡浩之、姜旻廷、森山宣子、西坂麻里、安藤真一
2. 発表標題 閉塞性睡眠時無呼吸(OOSA)患者の持続陽圧呼吸(CPAP)治療アドヒアランスにおける年齢層別の検討
3. 学会等名 日本睡眠学会第44回定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎啓子、榑木晶子
2. 発表標題 成人を迎えた先天性心疾患女性のリプロダクティブヘルス/ライツに基づく看護支援
3. 学会等名 日本小児循環器学会 第55 回日本小児循環器学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長岡和宏、向井靖、河合俊輔、坂本和生、坂本一郎、石北綾子、林谷俊児、榑木晶子、筒井 裕之
2. 発表標題 Twin AV nodeを介する回帰性頻拍に対してカテーテルアブレーションを施行した修正大血管転移症の一例
3. 学会等名 第126回日本循環器学会九州地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 ダイバーシティ推進と連動した医師の働き方改革をめざして
3. 学会等名 JCRミッドナイトサマーセミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroko Deguchi, Yasushi Mukai, Kazuhiro Nagaoka, Shunsuke Kawai, Ichiro Sakamoto, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Establishment of a Transvenous Atrial Pacing Lead in a Patient with TCPC-Type Fontan Circulation
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shunsuke Kawai, Yasushi Mukai, Kazuhiro Nagaoka, Kazuo Sakamoto, Shujiro Inoue, Daisuke Yakabe, Shota Ikeda, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Does Left Atrial Low Voltage Area Extend within a Year?
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Mukai, Nobuhiro Honda, Kazuo Sakamoto, Kenji Sadamatsu, Hideki Tashiro, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Epicardial Conductions between the Vein of Marshall, the Left Atrium, and the Left Pulmonary Vein Were Eliminated by Endocardial Catheter Ablation
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiro Nagaoka, Yasushi Mukai, Shunsuke Kawai, Susumu Takase, Kazuo Sakamoto, Shujiro Inoue, Shota Ikeda, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Predictors for the Improvement of Cardiac Function and Clinical Outcomes after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation in Patients with Systolic Dysfunction
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shota Ikeda, Yasushi Mukai, Shunsuke Kawai, Kazuhiro Nagaoka, Kazuo Sakamoto, Shujiro Inoue, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Clinical Characteristics in Asymptomatic Versus Symptomatic Patients with Atrial Fibrillation Undergone Catheter Ablation
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi Imakiire, Yasushi Mukai:1, Kazuhiro Nagaoka:1, Shunsuke Kawai:1, Kazuo Sakamoto:1, Akiko Chishaki:1, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 A Case of Radiofrequency Catheter Ablation for Ventricular Tachycardia under the Support of Impella Ventricular Support System
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shunsuke Kawai, Yasushi Mukai, Kazuhiro Nagaoka, Kazuo Sakamoto, Shujiro Inoue, Daisuke Yakabe, Shota Ikeda, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Efficacy of Pulmonary Vein Isolation Alone in Persistent Atrial Fibrillation in Consideration of Voltage Mapping
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiro Nagaoka, Yasushi Mukai, Shunsuke Kawai, Susumu Takase, Kazuo Sakamoto, Shujiro Inoue, Daisuke Yakabe, Shota Ikeda, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Characterization of Atrial Functional Mitral Regurgitation in Patients with Atrial Fibrillation
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryoko Yada, Yasushi Mukai, Kazuhiro Nagaoka, Shunsuke Kawai, Kazuo Sakamoto, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Detailed Mapping by Novel Multipolar HD Grid Catheter in the Case of Localized Reentry in Atrial Tachycardia
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Shojima, Yasushi Mukai, Shota Ikeda, Shunsuke Kawai, Ayako Ishikita, Kazuhiro Nagaoka, Kazuo Sakamoto, Ichiro Sakamoto, Shunji Hayashidani, Akiko Chisyaki:1, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Successful Catheter Ablation of Atrial Tachycardia in a Patient with Surgically Corrected Complete Atrioventricular Septal Defect, with Inferior Vena Cava Defect and Dextrocardia
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Sakamoto, Yoshitomo Tsutsui, Yasushi Mukai, Kazuhiro Nagaoka, Shunsuke Kawai, Ryoko Mori, Shouta Ikeda, Daisuke Yakabe, Shujiro Inoue, Akiko Chisyaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題 Inconsistent Left Atrial Voltage Map Obtained Either by a Duo-Decapolar Spiral Catheter or a Novel Omnipolar, Directionality Accounted Catheter (HD-Grid) in Atrial Fibrillation
3. 学会等名 第66回日本不整脈心電学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 循環器医療での働き方：現状と課題
3. 学会等名 第67回日本心臓病学会学術集会/男女共同参画委員会セッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 質の高い循環器医療を確保していくための働き方改革とは「持続可能な医療を目指した医師の働き方を一考する」
3. 学会等名 第67 回日本心臓病学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高瀬進、西村遼平、坂本和生、阿部弘太郎、林谷俊児、向井靖、榑木晶子、筒井裕之
2. 発表標題 先天性 QT 延長症候群に合併したRVOT-PVC triggered polymorphic VT に対してカテーテルアブレーションを施工した症例
3. 学会等名 カテーテルアブレーション関連秋季大会2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮田潤子, 貝沼茂三郎、入江敬子、榑木晶子
2. 発表標題 発達障害に伴う排泄障害に漢方治療が奏功した4例
3. 学会等名 第45回日本東洋医学会九州支部学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 医師の働き方から見た女性医師支援
3. 学会等名 鹿児島大学病院院内講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 医療現場のことや命の尊さ、大学生の指導に関すること、女子中高生に期待すること」
3. 学会等名 筑紫女学園中学校・高等学校「誠道会法要」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiro Nagaoka, Yasushi Mukai, Shunsuke Kawai, Susumu Takase, Kazuo Sakamoto, Shujiro Inoue, Daisuke Yakabe, Shota Ikeda, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsu
2. 発表標題 Morphological Mechanisms of Atrial Functional Mitral Regurgitation in Patients with Atrial Fibrillation
3. 学会等名 ESC（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiro Nagaoka, Yasushi Mukai, Shunsuke Kawai, Susumu Takase, Kazuo Sakamoto,
2. 発表標題 Clinical predictors for the improvement of left ventricular ejection fraction and prognosis after catheter ablation of atrial fibrillation in patients with systolic dysfunction.
3. 学会等名 ESC（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名	Susumu Takase, Kazuo Sakamoto, Koutaro Abe, Shunji Hayashidani, Yasushi Mukai, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題	Successful Catheter Ablation of Fascicular Ventricular Tachycardia Originating from Posterior Papillary Muscle: experience in two cases.
3. 学会等名	APHRS2019 (国際学会)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Kazuo Sakamoto, Susumu Takase, Yasushi Mukai, Shunsuke Kawai, Kazuhiro Nagaoka, Shujiro Inoue, Daisuke Yakabe, Takahiro Watanabe, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsu
2. 発表標題	The impact of stepwise intervention of catheter ablation and transcatheter closure for atrial septal defect patients complicated with atrial fibrillation.
3. 学会等名	APHRS2019 (国際学会)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Kazuhiro Nagaoka, Yasushi Mukai, Shunsuke Kawai, Susumu Takase, Kazuo Sakamoto, Shujiro Inoue, Akiko Chishaki, Hiroyuki Tsutsui
2. 発表標題	Morphological Characteristics in Atrial Functional Mitral Regurgitation in Patients with Atrial Fibrillation.
3. 学会等名	APHRS2019 (国際学会)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	樽木晶子
2. 発表標題	デバイス患者のQOL向上を目指して
3. 学会等名	第12回植込みデバイス関連冬季大会 シンポジウム
4. 発表年	2020年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 働き方改革の中での女性医師支援
3. 学会等名 令和元年度福岡県医師会勤務医部会・男女共同参画部会合同研修会（
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 子育ては感謝のきもちで ~ 女性医師達の奮闘の果てに見えたもの ~
3. 学会等名 宮崎県産婦人科医会・宮崎県産科婦人科学会 秋季定時総会・市民公開講座（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiko Chishaki
2. 発表標題 Survey on healthcare professionals' working style and health and safety
3. 学会等名 Kyushu University Asia Week 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 多職種連携による口腔と全身の健康を目指した健康診断の取組み
3. 学会等名 ジャパンオーラルヘルス学会第24回学術大会（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉永泰周、米田雅裕、谷口奈央、松崎英津子、畠山純子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 高等学校における歯周疾患の健診結果通知による影響と関連要因の検討
3. 学会等名 ジャパンオーラルヘルス学会第24回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口奈央、米田雅裕、吉永泰周、松崎英津子、畠山純子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 学校健診結果にもとづく高校生の口臭に対する意識の実態とその要因についての検討
3. 学会等名 ジャパンオーラルヘルス学会第24回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口奈央、米田雅裕、畠山純子、吉永泰周、松崎英津子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 学校歯科検診結果にみる高校生の口臭の自覚とその関連要因
3. 学会等名 第49回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉永泰周、米田雅裕、谷口奈央、松崎英津子、畠山純子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 高等学校の歯科健診における結果通知による影響と歯周疾患との関連要因の検討
3. 学会等名 第49回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 樽木晶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 3
3. 書名 総合診療 特集 ライフステージで見る女性診療at a glance! 「微小血管狭心症と診断する決め手は？」	

1. 著者名 樽木晶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本循環器病予防学会	5. 総ページ数 11
3. 書名 日本循環器病予防学会誌 「心電図診断制度向上へのチャレンジと心疾患二次予防の20年」	

1. 著者名 佐伯 由香 編訳 細谷 安彦 編訳 高橋 研一 編訳 桑木 共之 編訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 686
3. 書名 トートラ人体の構造と機能 11版 第14章心血管系：血液	

1. 著者名 樽木晶子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本外科学会	5. 総ページ数 3
3. 書名 日本外科学会誌	

1. 著者名 樽木晶子 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メディカルサイエンスインターナショナル	5. 総ページ数 9
3. 書名 心不全ケア教本第2 版	

1. 著者名 樽木晶子 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本臨牀	5. 総ページ数 7
3. 書名 心不全 (第 2版) 下77	

1. 著者名 樽木晶子 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 3
3. 書名 心電図39	

1. 著者名 樽木晶子 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本不整脈心電学会	5. 総ページ数 3
3. 書名 心電図	

1. 著者名 樽木晶子 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 9
3. 書名 心電図関係不整 脈の考え方、治し方	

1. 著者名 樽木晶子 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 11
3. 書名 産科婦人科臨床 6 女性ヘルスケア	

1. 著者名 樽木 晶子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 3
3. 書名 総合診療 2022年11月号 特集 不定愁訴にしない“MUS”診療 病態からマネジメントまで 「動悸・胸痛 診断の進め方のポイントは？」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	錦谷 まりこ  (Nishikitani Mariko)  (40327333)	九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター・准教授   (17102)	
研究分担者	城戸 瑞穂  (Kido Mizuho)  (60253457)	佐賀大学・医学部・教授   (17201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中島 直樹 (NAKASHIMA Naoki) (60325529)	九州大学・大学病院・教授  (17102)	
研究分担者	守屋 普久子 (Moriya Fukuko) (80449917)	久留米大学・医学部・講師  (37104)	
研究分担者	武富 貴久子 (Taketomi Kikuko) (80543412)	札幌市立大学・看護学部・講師  (20105)	
研究分担者	伊豆倉 理江子 (Izukura Rieko) (80805292)	九州大学・医学研究院・学術研究員  (17102)	
研究分担者	藤野 コリ子 (Fujino Yuriiko) (90320366)	福岡女学院看護大学・看護学部・教授  (37126)	
研究分担者	永吉 絹子 (Nagayoshi Kinuko) (90761015)	九州大学・大学病院・助教  (17102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------